

研究開発成果実装支援プログラム（公募型）実装活動事後評価報告書

平成 27 年 12 月

研究開発成果実装支援プログラム（公募型）

プログラム総括 富浦 梓

実装活動プロジェクト名：優良盲導犬の効率的育成と普及率の向上

実装責任者：鈴木 宏志（帯広畜産大学 原虫病研究センター 教授）

支援期間：平成 24 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日

1. 総合評価

一定の成果が得られたと評価する。

本プロジェクトの最終目標は、性格関連遺伝子の多型解析による盲導犬適性の解析技術が盲導犬の効率的な育成のために活用し得ることを実証して、全国の盲導犬事業所にこれらの育成技術の利用と普及を促進することである。より具体的には、現在の盲導犬訓練後の合格率（30%程度）を大きく改善させて70%を実現し、年間の育成頭数を300頭、実働盲導犬数を1,500頭¹にまで増加させる体制を構築することである。3年間の実装支援期間終了時点での目標は、盲導犬候補犬の訓練結果（観察値）と多型解析による適性推定結果（予測値）間の合致率が80%に達していることであった。

解析の結果では、80%を超える確率でキャリアチェンジ犬²が抽出可能であることが示されていることから、遺伝子多型が盲導犬の適性に影響することが実証され、今後の適用拡大が期待できる。これにより、盲導犬の効率的育成、普及に寄与するものと考えられる。また、盲導犬だけでなく聴導犬、そして介助犬など今後もニーズは高くなると予想されるため、より効率的な飼育・訓練が求められており、今後の継続、発展の可能性も期待できる。他方、適性のない犬にとって負荷を少なくする手段³としても大いに期待したい。マスメディアにも報道されるなど反響も大きく、本プロジェクトによる盲導犬の効率的育成方法の普及に一定の成果があったものと評価できる。

今後は、遺伝子の多型解析によって盲導犬適性が低いと認められた犬については、パピーウォーカーへの委託を含めて盲導犬としての訓練をしない、また、盲導犬適性が高い遺伝子多型を持つ犬を多く育成可能にするように繁殖コロニーを構成、交配計画を策定するように働きかけることを期待する。また、盲導犬の絶対数増加に向けて、実装活動で遭遇した問題解決策として、実装責任者も指摘している大規模な組織体制や仕組みの確立に努力して欲しい。

¹ 全国の盲導犬事業所から、毎年、約 150 頭の盲導犬が供給されているが、うち、これまで盲導犬を使用したことがない視覚障がい者に新規に貸与される盲導犬は約 50 頭余りであり、需要を満足するに至っていない。実働盲導犬数は約 1,000 頭。

² 身体的に懸念がある犬や、訓練を行ったが稟性的（性格）に盲導犬に向かないと判断した盲導犬の候補犬は、進路を変更する事からキャリアチェンジ 犬と呼ばれる。

³ 盲導犬は誕生から約 1 年間社会馴化のためパピーウォーカーに預けられ、その後避妊・去勢され、評価に通れば、盲導犬の訓練が約 10 ヶ月間行われる。訓練後の評価で、盲導犬か、キャリアチェンジ犬かが決まる。

2. 各項目評価

(ア) 実装支援の目標の達成状況

概ね達成されたと評価する。

北海道を中心とした複数の盲導犬協会所属の犬について調査した結果、遺伝子多型解析により、80%を超える確率でキャリアチェンジ犬が抽出可能であることが示されている。他方、盲導犬適性予測の確率は低く、合格率向上までは至らなかったが、盲導犬協会との密な連携、キャリアチェンジ犬での正判別率の高さなどから、目標は概ね達成できていると評価する。

(イ) 実装支援終了後の実装の継続及び発展の可能性

大いに可能性があるとして評価する。

盲導犬の絶対数増加のニーズは高く、実装支援期間中で成果も出していることから、今後の継続、発展可能性は高いと評価する。世界盲導犬事業所連盟のセミナーにおいても注目されており、動物愛護の観点からも海外の盲導犬、補助犬事業への普及の可能性も考えられる。現実には有効な識別方法がない以上、この方法が最有力な方法の一つであろう。また、検査数が増大することにより、予測モデルの精度が向上することが期待される。

(ウ) 組織体制は適正であったか

適正であったと評価する。

盲導犬協会や同協会を通じた視覚障がい者との連携が図られており、信頼感を保っているように見受けられた。帯広畜産大学を中心に、北海道、関西、九州盲導犬協会などとの連携のもと、適切な実施体制であったと評価できる。今後は、実施主体の獲得やそのための資金調達が不可欠であり、その担い手を実装体制に組み込むなど、より幅広い協力が必要と思われる。

3. その他特記事項

朝日新聞（夕刊1面の記事として「盲導犬この子は適任？DNAチェック」の見出しで紹介）やNHK（「視点・論点」で「盲導犬の効率的育成と普及向上」と題して放映）で取り上げられるなどマスメディアの報道があり、また、世界盲導犬事業所連盟のセミナーにおいても紹介されるなど、国内外ともに注目を集めた。盲導犬事業者による成果の活用、海外への展開も期待したい。

以上

<別紙：評価者一覧>

	氏名	所属・役職
プログラム 総括	富浦 梓	元 東京工業大学 監事
プログラム アドバイザー	川北 秀人	人と組織と地球のための国際研究所 代表者
	澤田 澄子	キヤノン株式会社 人事本部 グローバル要員管理部 シニアコーディネーター
	鈴木 浩	日本経済大学 大学院経営学研究科 教授／メタエンジニアリング研究所 所長
	塚本 修	一般財団法人 石炭エネルギーセンター 理事長／東京理科大学 特任教授
	西嶋 美那子	産業カウンセラー
	西村 吉雄	フリーランス技術ジャーナリスト
	前田 裕子	株式会社ブリヂストン 執行役員 環境担当
	善本 哲夫	立命館大学 経営学部 副学部長／教授
	渡辺 多恵子	日本保健医療大学 保健医療学部 准教授